

病害虫発生予察情報

病害虫発生予察情報(美濃地域) 4月予報

【小麦】赤かび病

昨年、広範な発生がありました。1回目の防除を「開花始め」、2回目の防除を「1回目の10日後」に行ってください。ほ場での生育状況をよく観察し、防除時期を逃さないように注意しましょう。

【施設野菜】微小害虫

一部のイチゴほ場において、ハダニ類及びアザミウマ類の発生が多くなっています。また、トマトほ場においてはコナジラミ類の発生が多くなっています。今後の気温が平年より高いと予測されるため、増加が予想されます。発生初期の防除を徹底しましょう。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測（4月）

＜作物及び果樹＞

作物	病害虫名 (防除適期)	4月 (予測)	発生状況及び今後の予測						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
水稲	ヒメトビウンカ	並						＜第1世代幼虫発生(小麦)＞	・小麦ほ場の防除を行う。
小麦	生育	やや早	＜出穂＞						(さとのそら)
	赤かび病	多	＜感染＞						・ 赤かび病 高温多雨の気象条件で発生が助長される。防除適期である開花始めとその10日後の防除を徹底する。
	防除適期		▲～赤かび病						
カキ	生育	やや早							(富有) 発芽期 3/9 (平年 3/13)
	フジコナカイガラムシ	並					＜新梢へ移動＞		・昨年、多発したほ場では注意する。薬剤防除は、散布ムラがないよう丁寧に行う。
ナシ	防除適期		▲～フジコナカイガラムシ						
	生育	並							(幸水) 発芽期 3/12 (平年 3/13)
	黒星病	やや多	＜感染＞						・開花期(平年4/9)に降雨が多いと感染が拡大するため防除を行う。
	赤星病	やや多	＜感染＞						
防除適期		▲～赤星病・黒星病							

注1) ▲：防除適期

＜施設野菜＞

作物	病害虫名	4月 (予測)	発生状況及び今後の予測	3月 (発生量)	防除上の注意事項
イチゴ	灰色かび病	やや少	一部のほ場で発生が認められる。今後、気温は平年より高く、降水量は多いと予測されるため、発病に注意する。	少	・ アザミウマ類 施設内の発生状況に注意し、本虫が増加する前に薬剤防除を行う。
	うどんこ病	やや少	調査ほ場では発病は認められない。今後、発生適温となり、日照時間も少ないと予測されるため、発病に注意する。	少	・ ハダニ類 ほ場内をよく観察し、天敵導入後もハダニ類の発生が抑制できない場合には薬剤防除を実施する。薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	ハダニ類	並	一部のほ場で発生が認められる。今後、気温の上昇により増加が予測される。	やや少	
	アザミウマ類	やや多	一部のほ場で発生が認められる。今後、気温の上昇により増加が予測される。	並	
	コナジラミ類	少	一部のほ場で発生が認められる。今後、気温の上昇により増加が予測される。	少	
トマト	灰色かび病	やや多	一部のほ場で発生が認められる。今後、発生適温となるため、発病に注意する。	やや多	・ コナジラミ類 施設内の発生状況に注意し、本虫が増加する前に薬剤防除を行う。
	コナジラミ類	多	一部のほ場で発生が認められる。今後、気温の上昇により、増加が予測される。	多	
キュウリ	褐斑病	少	調査ほ場では発病は認められない。今後、降水量は多いと予測されるため、罹病性品種は発病に注意する。	少	・ べと病、褐斑病 曇雨天が続くと発生量が増加するため、薬剤防除を行う。
	うどんこ病	多	調査ほ場では発病は認められない。今後、発生適温となり、日照時間も少ないと予測されるため、罹病性品種は発病に注意する。	多	・ アザミウマ類(ミナミキイロ) キュウリ黄化えそ病を起こすMYSV(メロン黄化えそウイルス)を媒介するため、低密度でも薬剤防除を行う。
	べと病	少	一部のほ場で発生が認められる。今後、降水量は多いと予測されるため、罹病性品種は発病に注意する。	少	
	アザミウマ類	やや少	調査ほ場では発生は認められない。今後、気温の上昇により発生が予測される。	少	
	コナジラミ類	並	一部のほ場で発生が認められる。今後、気温の上昇により発生が予測される。	やや少	

注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注3) 調査品種：イチゴ：濃姫、美濃娘及び紅ほっぺ トマト：りんか及びかれん キュウリ：ニーナ及びまりん

数値データ

(岐阜・西濃地域3月調査)

イチゴ			
灰色かび病	(発病果率)	0	(0.1)
うどんこ病	(発病株率)	0	(0.0)
ハダニ類	(寄生株率)	0	(12.4)
アザミウマ類	(寄生花率)	10.8	(16.5)
コナジラミ類	(寄生株率)	0	(0.7)
トマト			
灰色かび病	(発病果率)	0.3	(0.2)
灰色かび病	(発病株率)	0.7	(1.8)
コナジラミ類	(誘殺頭数)	56.8	(2.7)
キュウリ			
褐斑病	(発病葉率)	0	(0.0)
うどんこ病	(発病葉率)	1.9	(0.8)
べと病	(発病葉率)	0	(0.0)
アザミウマ類	(寄生頭数/葉)	0	(0.0)
コナジラミ類	(寄生頭数/葉)	0	(0.0)

注1) ()内数値は平年値 果率、株率、花率及び葉率は%

注2) イチゴ、トマトは3ほ場、キュウリは2ほ場の調査

注3) トマトのコナジラミ類は施設内に設置した黄色粘着板での調査データ (3月1半旬~3半旬までの累計誘殺数)

果樹 カメムシ類

チャバネアオカメムシ越冬量調査結果 (頭)

調査場所	調査年度		平年
	R5	R4	
岐阜市 東秋沢	0	0	1.6
〃 彦坂川南	0	0	0.8
海津市 南濃町奥条	0	0	1.5
大野町 牛洞	0	1.0	0.5
本巣市 法林寺	1.0	0	0.8
美濃市 曾代	2.0	0.5	1.8
美濃加茂市 山之上西洞	2.0	0.9	1.8
〃 山之上中之番	3.0	0	1.4
中津川市 落合	0	0.3	0.2
〃 阿木	6.0	0.8	0.8
恵那市 武並	19.0	0	—
平均	3.0	0.3	1.1

注1) 落葉採取時期: 令和6年2月

注2) 調査地点あたり落葉を50L採取し、ハンドソーティングにより調査

野菜類 微小害虫

ヒラズハナアザミウマは、イチゴ果実に傷をつけるため、問題となります。現在、一部のほ場で発生量が多くなっています。また、寄生花率が低くても、気温の上昇とともに急激に増加するため、注意が必要です。

ミナミキイロアザミウマは、キュウリ黄化えそ病を起こすMYSV (メロン黄化えそウイルス) を媒介し、低密度でも大きな被害を与えます。

タバココナジラミは、トマト黄化葉巻ウイルス及びウリ類退緑黄化ウイルスを媒介します。本虫の活動が活発になるにつれてウイルス病の増加が懸念されます。

今後は気温の上昇とともに、これら微小害虫の増加が予測されるため、施設内をよく観察し、防除を行ってください。



ヒラズハナアザミウマ



タバココナジラミ



ミナミキイロアザミウマ

チャバネアオカメムシは落葉下で越冬するため、越冬量が多い年は4月~7月の発生が多くなる傾向があります。そこで、越冬成虫の発生量を予測するための目安として、落葉を採取して越冬虫数を測定する調査を毎年行っています。

今年2月に、県下11地点で実施した調査では、6地点で越冬中のチャバネアオカメムシ成虫を確認し、越冬量は平均で3.0頭でした (左表参照)。

越冬成虫数が多い場合は、餌としてカメムシが嗜好性を示す、サクラ果実の結実 (5月頃) およびスギ・ヒノキ果実の結実 (7月頃) の間に生じる餌が不足する期間に、果樹園への飛来数が多くなる傾向にあります。本年の越冬成虫数は、地域により差がありますが、美濃地域全体の平均値では、昨年より多く、平年に比べても多い結果となっています。とくに、中濃及び東濃地域で多い傾向がありました。

本虫の越冬地に近い山際のほ場では、加害を受ける可能性があるため、今後の発生状況には十分注意しましょう。

＝施設栽培の病害虫防除について＝

施設栽培では、作型や栽培環境などにより施設ごとに病害虫の発生状況が異なります。施設内をよく観察し、病害虫の発生状況に応じた防除を実施してください。

東海地方1か月予報 (名古屋地方気象台 3月21日発表)

向こう1か月の気温は平年より高い、降水量は多い、日照時間は少ないと予想されます。天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767



岐阜県病害虫防除所
トップページ
二次元バーコード